2007.9　Vol.9

電気のふるさと

電源地域ニュース

● 特集 Pick Up!

発想の転換により全国が注目する町に変身

世界初“建物のない美術館”で未来へ前進

高知県 黒潮町

財団法人 電源地域振興センター

「砂浜美術館」のイベントのひとつ「シーサイドはだしマラソン」
長くて美しい砂浜だからこそ「はだし」で走れます。
毎年五月の連休中のTシャツアート展に合わせて開催され、大人から子供まで全国からはだしのランナーが集合。

高知県 黒潮町

Pick Up

発想の転換により全国が注目する町に変身
世界初“建物のない美術館”で未来へ前進

高知県黒潮町は、四国・西南部の海沿いにある温暖な町。美しい砂浜と松原のある景勝地として知られてきましたが、松原がマツクイムシにより壊滅的な被害を受けてしまいました。そこでその再生をきっかけとして“造られた”のが、建物のない美術館「砂浜美術館」です。今回は、環境そのものを生かすユニークな発想の転換で集客効果をあげ、全国から注目されている黒潮町の取り組みをご紹介します。

南国土佐・黒潮が洗う漁業と農業の町

平成十八年三月に大方町と佐賀町が合併して誕生した黒潮町。高知市から西に約百キロメートルに位置し、約百八十八平方キロメートルの面積に、約一万四千人が暮らしています。南国特有の温暖な気候で、旧大方町ではハウス園芸や黒砂糖・葉タバコ作り、稲作などの農業が中心。一方旧佐賀町は、日本一の漁獲高を誇るカツオ船団を有し、カツオの一本釣りを中心とした漁業が盛んです。太平洋沿岸では、ニタリクジラやバンドウイルカなどが見られることから、ホエールウォッチングも観光客の人気を集めています。旧佐賀町には、四国電力株式会社の佐賀水力発電所（一万五千七百ワット）があり、地域に電気を供給しています。

また旧大方町は、白砂青松が美しい景勝地「入野松原」でも知られていました。しかし昭和の終わり頃、数万本あった樹齢数百年の松がマツクイムシによる被害で枯れていき、松原の一部は廃材やゴミの捨て場になっていたのです。当時、町はシンボルである「入野松原」の再生を中心に、人口の減少・高齢化や産業の振興対策など様々な問題に直面していました。

きっかけは入野松原の再生と「松原サミット」

平成元年七月、全国各地の松原再生をテーマとした「松原サミット」が、旧大方町で開催されることになりました。この年はちょうど町振興のための十年計画を立案する年に当っており、また国の「ふるさと創生事業」の交付金を利用して壊滅的打撃を受けていた入野松原の再生に取

お問合わせ先：黒潮町役場 総務課 企画振興係　TEL 0880-43-2112
NPO砂浜美術館　TEL 0880-43-4915　http://sunabi.com

Person Vol.9

今後の電源市町村の観光振興へ向けて

横浜商科大学 商学部貿易・観光学科 教授
羽田 耕治

着地型旅行商品開発に地域の関心がとみに高まっている。（財）電源地域振興センターが実施している「観光現地指導会」事業への参加申し込み状況をみても、この着地型旅行商品開発に関わる案件が目立っている。従来、旅行会社の商品づくりは、発地（市場）側で商品企画・造成・販売をするものであり、歴史的に「発地型」であるため、「発地型旅行商品」という言い方はしなかった。これに対して、旅行者の着地である地域の側が主導してつくる旅行商品として注目されてきたのが、「着地型旅行商品」である。

着地型旅行商品が注目されてきた背景には、旅行者ニーズの多様化、高度化、一方でそうしたニーズに情報入手・商品開発で的確に対応しにくい旅行会社側の事情がある。既存の観光地においても多様化、高度化する観光客ニーズへの対応が不十分で、魅力的な観光体験プログラムが不足しており、それが観光入り込みの減少につながっている。そこで、地域資源を新しい観点から捉え直し、活かしていく観光振興方策が求められてきている。その有力な方策の一つが着地型旅行商品開発なのである。そこでの主たるテーマは、エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光、ヘルスツーリズム、滞在型・暮らし体験型、まち歩きなどで、商品化のキーポイントは、「地域密着・地域連携・地域協働」、「多様な地域資源の多彩な活用」、「人との触れあい（ガイド、インストラクター、住民）」、「学び」である。

着地型旅行商品は、地域における新たな観光魅力づくりと新たな観光顧客の獲得、滞留・滞在利用の促進と観光消費機会の増大、地域資源の多彩な活用による農林漁業、商工業の活性化の促進、地域における新たな観光ビジネスの起業、コミュニティビジネスとしてのガイド業の展開といった可能性を有している。自然、生活文化、そして発電所をはじめ農漁業などの産業に恵まれた電源市町村こそ、この着地型旅行商品開発に積極的に取り組んでもらいたい。そのための人材育成、組織づくりを急ぎたいものである。■

Contents　Vol.9

2 人
今後の電源市町村の観光振興へ向けて
羽田 耕治

3 Pick Up！
世界初“建物のない美術館”で未来へ前進
高知県 黒潮町

8 ふるさと応援団
㈱土澤まちづくり会社
岩手県 花巻市東和町土沢地区

10 いきいき電源地域
いいだ人形劇フェスタ
長野県 飯田市
大湊ネブタ祭り
青森県 むつ市

12 センター掲示板
・相談窓口のご案内
・「エネルギー人形劇」上演のお知らせ
・「エネルギープラザ2007」開催のお知らせ
・平成19年度下期原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金について
・「新潟県 柏崎市・刈羽村 震災復興事業」を実施しました
・「夏休み親子体験学習会2007in東京」を開催しました
・Vol.8読者の声から
・人事往来
・お知らせ
・読者プレゼント

16 電気のふるさと産品自慢
平田赤ねぎ
山形県 酒田市

今号の表紙

佐賀水力発電所（四国電力）
最大出力：1.57万kW
運転開始：昭和12年12月

黒潮町役場 総務課 企画振興係
係長 松本敏郎さん

り組んでいる最中でした。そこで町は入野松原を含め、四キロメートルに及ぶ砂浜の活用方法を真剣に検討していました。

「松原サミットで日本中からやって来る人たちに、屋外で雄大な太平洋をアピールしたいと考えていました。そんな折り、高知市に住んでいたデザイナーの梅原さんから、砂浜を利用したTシャツアート展の提案があったのです」旧大方町の企画振興係におり、現在は黒潮町役場の企画振興係長である松本敏郎さんは当時を振り返ります。

Tシャツアート展とは、写真をプリントした何百枚ものTシャツを、砂浜に打った多数の杭に渡したロープに洗濯物を干すように掲げる展示会。梅原さんが、東京にいた友人のカメラマンから、Tシャツに写真や絵を簡単にプリントできるということを聞いて思いついたアイデアでした。Tシャツへのプリントは、当時あまり知られていない技術だったのです。松本さんを始めとする役場のスタッフと梅原さんは議論を重ね、これに砂の彫刻の展示を加えた「松原サミット」でのイベント「シーサイドギャラリー案」を企画しました。

砂浜でのTシャツアート展を町長に直談判

当時はバブルの真っただ中で、町の振興十年計画にホテルやプールなどを建設するリゾート計画も提案されていました。しかし町では〝箱もの〟による対策は考えず、また派手なコンサートなどその場限りのイベントにも懐疑的でした。

「一時的にお客さんを集めても、後が続かずだんだん負担になってくるのは目に見えている。継続的にできるものはないかと探していた時に、Tシャツアート展はピンときました。しかし一見、洗濯物を干して周りで砂遊びをするような企画に、町長が予算を付けてくれるだろうかと不安でした」と松本さん。案の定、この企画を当時の坂本町長に直談判して説明しましたが、返事がありませんでした。

「説得が行き詰まった時、役場のスタッフの一人が〝Tシャツと砂の彫刻だけじゃなく、沖を泳いでいる鯨も、松原も作品と考えたらええと思う〟と言い出したのです。それを聞いた梅原さんが大きく手を打って〝でけた！〟と叫びました。ありのままの自然を〈資源〉とする考え方が形を表した瞬間でした」と松本さんは感慨深げに話します。

その後、それぞれのイメージが具体性を帯びた発言となり、最後に町長は〝何もしなければ何も変わらん、失敗してもいいからとにかくやってみろ〟と決済を下したのです。

松原サミットで「第一回Tシャツアート展」開催

そして平成元年八月十三日から三日間、松原サミットにおいて「第一回Tシャツアート展」と「砂の彫刻展」が実施されました。このイベントのいわば実行部隊として組織されたのが「砂美人連」です。役場の職員と町の有志が集まったグループで、Tシャツ展示や砂像造りからポスター貼りまでの汗をかく仕事を受け持ちました。

「Tシャツは、梅原さんの友人カメラマンの作品二百枚。また同時に高さ四メートルの砂の彫刻〈西洋の城〉も展示され、夜は花火も打ち上げられました。このイベントは地元のマスコミを通じて広く報道され、予想を上回る反響を呼びました。でも最も注目を集めたのは砂の彫刻で、各新聞社が取り上げた写真もほとんど〈西洋の城〉。スタッフの多くも、このイベントのメインは砂像だと思っていたようです」と松本さん。この頃はまだ、あたりまえの自然を「資源」とする考え方について、「形」はあっても、「伝える」までには至っていなかったのです。

美しい砂浜が〝美術館〟――視点を変えると新しいドラマが生まれる

「砂浜美術館」構想の誕生

松原サミットが終了し、その反省を踏まえながら今後町が取り組む活動の土台となる考え方が協議されました。そして誕生したのが「砂浜美術館」構想でした。

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」と現在も砂浜美術館のパンフレットなどに記載されているこのメッセージや「砂浜美術館」というネーミングを考案したのは、デザイナーの梅原真さんです。梅原さんは高知県出身で、パッケージデザインの仕事をメインに活動中。現在では高知県文化環境部が発行しているフリーペーパー「とさのかぜ」の編集長を務め、地元の魅力を紹介しています。

梅原デザイン事務所
デザイナー 梅原 真さん

「建物のない美術館は、〝箱もの〟が全盛だったバブル時代への皮肉。見方を変えることから生まれる皮肉は、えてして本質を見せてくれるもの。商品の本質を一目で伝えるのがパッケージデザインの仕事ですが、自然そのものが美術館であるという考え方をストレートに表現したのが砂浜美術館という名前なのです」と梅原さん。

美しい松原、沖に見える鯨、砂浜に咲くらっきょう、卵を産みにくるウミガメ、浜に流れ着く漂流物、裸足で走り回る子供たち…それらすべてが「砂浜美術館」の作品。BGMは波の音、照明は太陽と月の光、作品は二十四時間・三百六十五日展示されます。

「砂浜美術館は、訪れる人が自然の中に自分で作品を見つける美術館であること。多くの人にその考え方をわかりやすく伝えるために、砂浜をステージにしたイベントがあること。この基本理念をみんなで構築しました」と梅原さんは話してくれました。現在、砂浜美術館ではTシャツアート展のほか、らっきょうの花見、漂流物展、はだしマラソン、潮風のキルト展、ホエールウォッチングなどが開催されています。

百枚以上のTシャツが大波で流された

Tシャツアート展はその後も毎年開催を続け、「砂浜美術館」のシンボル的なイベントとなっていきました。第二回からは作品の公募を開始。応募作品に町の小・中学校の作品、町の歴史写真などを合わせて千枚の展示が実現しました。また集められた作品の審査を行い、優秀な作品に賞が与えられるようになりました。第三回目からは写真の部と絵画の部が設けられ、応募数も来場者数も年々増加して全国的に知られるようになったのです。順風満帆のように見えたTシャツアート展ですが、その中には様々な困難もありました。町役場の松本さんは語ります。

「第四回の時は、大変な事態が発生しました。時ならぬ台風の影響を受け、波で展示していたTシャツが百

「館長は鯨！」開館式のエピソード

平成３年４月１日（エイプリルフール！）、「砂浜美術館」の開館式が行われました。

砂浜に造られた鯨の実物大（13ｍ）砂像の前に、町の人たちが大勢集合。スピーカーから“クイ～ン、クイ～ン”という鯨の鳴声が流れ、それを通訳したメッセージ「みなさんこんにちは。私が砂浜美術館の館長です…」が伝えられました。それから正装の町長や町の名士たちがテープカットを行い、拍手が沸き起こりました。式典が終わると館長（鯨）の砂像は子供たちの遊び場となり、ただの砂山に…。「館長の砂像はどこですか？」と尋ねられた職員は、「館長は大変忙しく、海に帰っていかれました」と答えたそうです。

砂浜美術館の主なイベント

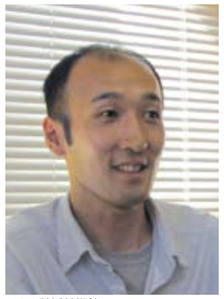
●Tシャツアート展
毎年五月上旬に五～六日間の会期で開催。現在は、全国から応募された千枚を超える作品が、海と空を背景にひらひらと踊り、その景色は壮観です。

●ホエールウォッチング
体長十～十四メートルのニタリクジラや、イルカたちに出会える約四時間のツアー。地元の漁師たちが漁船で案内する。

●潮風のキルト展
らっきょうの花が咲く十一月に開催される、パッチワークキルトのコンテスト。小春日和の松原で、潮風にカラフルな作品がそよぐ。

枚あまり流されてしまったのです。大波の中をスタッフが命がけで回収しましたが、結局数十枚は見つかりませんでした。第八回では会期二日目に暴風雨に見舞われ、会期を四日も残して中止を決定したのです。ところが翌日は嘘のような晴天で、お客さんたちから怒濤のような抗議を受けてしまいました」。

その他にも様々なアクシデントがあったそうですが、その最大の危機は十年目にやってきました。



NPO砂浜美術館
事務局長　村上　健太郎さん

十年目に存続の大ピンチが訪れる

第十回のTシャツアート展が終了した後、町議会で〝砂浜美術館は自然を乱している〟という声が上がりました。Tシャツアート展などの準備のため、砂浜に重機や四輪駆動車を乗り入れていたからです。確かにこれは〝自然との付き合い方を考える〟という砂浜美術館のテーマと矛盾しています。とはいえ、人力だけでイベントの準備をすることは困難でした。

「Tシャツアート展は、もともと町の振興十年計画がきっかけで始めたので、私自身も十年を区切りに、Tシャツアート展の責任者を降りるつもりでした。Tシャツアート展自体の存続についても、スタッフみんなで話し合いましたが、結論は〝今回限りで終了〟となりました」と松本さん。ところが〝そんな止め方をするもんではない〟と怒ったのは当時の中川町長でした。〝町も全面的に協力するから止めるな〟という町長の一言で、Tシャツアート展の継続が決定したのです。

一時的に自然を乱しても、復元可能ならば有効な場合がある。いちばん恐いのは、大切なものが忘れられ、知らぬ間になくなってしまうことだと考えた松本さんは、その後も活動を続ける決心をしました。そして五年後の平成十五年には、砂浜美術館を管理・運営する事務局として「NPO砂浜美術館」が誕生。これを町役場が援助するという体制が整いました。

イベント運営に全国からボランティアを募集

第十回のTシャツアート展からは、有名な写真家やイラストレーターなどを審査員に招くなど、イベントは盛り上がっていきました。それと同時に、「砂美人連（さみつとれん）」やスタッフの負担も大きくなっていったのです。そこで第十三回から、活動を助けるボランティアの募集を開始しました。

「Tシャツアート展は全国的に注目されているので、十人採用の募集にたくさんの応募があります。とくに県外の若い人が多いですね」と話すのはNPO砂浜美術館・事務局長の村上健太郎さん。村上さんは神奈川県出身で、トレッキングガイド（歩きながら自然や環境について解説する案内人）を養成する学校を卒業して、五年前に黒潮町にやってきました。

「ボランティアの人たちは、町の民宿（廃校を宿泊施設に改築した施設）に十日間くらい宿泊しながら活動をするのですが、この間、町の人たちとの様々なふれあいが生まれます。とくに地元の料理を作るなどいろいろ世話をしてくれる民宿の人と仲良しになり、帰る時に泣いている人もいますよ」。

Tシャツアート展だけでなく、年間の様々なイベントに全国各地から訪れる人たちと地元の人たちとの交流は年々多くなり、深まってきました。これも砂浜美術館がもたらした大きな効果といえます。

「私自身こちらで結婚し、子どもも生まれました。これも砂浜美術館のおかげですね」と村上さんは笑顔で話してくれました。

PRの大きなパワーになったTシャツアート展

「砂浜美術館」をPRする上で、Tシャツアート展は大きな情報発信源となりました。まず作品の公募告知があり、会期中はたくさんのマスコミが取材に訪れ、さらに審査結果発表としてそのつど情報の発信ができたのです。

「最近はイベントに対する風当たりが強いといいます。多大な予算とエネルギーを消費する割には効果が少ないからです。でもTシャツアート展はとても低予算で運営できます。この無理のない活動方法が、十九回も継続できた大きな要因だと思います。また、『砂浜美術館』というネーミングが持つ一見、砂浜に美術館が建っていると連想させるユニークさが受けているようです」と松本さんは語ります。

町の合併を機に新しい展開をいかに経済効果を高めるかも課題

旧佐賀町の「カツオ文化」とのコラボも

昨年、大方町と佐賀町が合併して黒潮町となりましたが、これを機に新しい活動の展開も協議されています。合併前は旧佐賀町役場に勤務し、現在は黒潮町の企画振興係で働く岡﨑ひとみさんはこう話します。

「今まで大方町としての取り組みだった砂浜美術館ですが、これからは佐賀町が持っている〈資源〉も活用して何かできないかと思っています。たとえばカツオの一本釣りで培ってきた〈カツオ文化〉もそのひとつ。大漁で賑わう港や素朴でおいしいカツオ料理、半年もの間、遠洋に出る漁師生活の知恵などにもヒントはたくさんあります」。

黒潮町役場 総務課 企画振興係
岡﨑　ひとみさん

合併を単なる制度の変更に終わらせるのではなく、プラスにしていきたいと岡﨑さん。

「砂浜美術館が伝えたいメッセージのひとつは、ものの見方を変えること。ふだん見過ごしてしまいがちな〝自然〟や〝人の生活〟の風景の中から、ドラマを見つけ出すことではないでしょうか。その考え方をベースに模索していけば、可能性はどんどん広がると思います」。

産業振興や過疎対策にもっと活用したい

黒潮町では現在、今後十年間の振興計画を作成中。産業振興や過疎高齢化対策がその重要な課題となっています。また地元の住民からは、もっと経済効果を高めてほしいという声が上がっています。

そこで町では、特産品であるハウス園芸のキュウリの販売強化や黒砂糖を使った特産品の開発などを検討しています。また町への移住促進にも力を注いでおり、インターネットなどを通じて毎日二～三人（サーフィン目的の若者から団塊の世代まで）の問い合わせがあるとのこと。これは明らかに砂浜美術館の知名度と好印象の効果です。

「たとえば入野の浜で採れたハマグリは、砂浜美術館のハマグリとして価値が付きます。砂浜美術館にはこの町の商品をブランド化させる魅力が潜在しているのです。これを産業振興に役立てたい」と町役場の松本さん。しかしそれだけではありません。松本さんはさらに熱く語ります。

「環境問題がクローズアップされ、人間本来の生き方が問われている現在、砂浜美術館の考え方は町づくりのレベルを超えて、日本全国や世界へ発信していくべきメッセージです。これからも砂浜美術館を町の宝として大切にしていきたい」。

四国のひとつの町から発信されたメッセージには、未来への大きなヒントが秘められています。

漂流物びっくり物語

これまで浜辺に流れ着いたものはゴミとしか見られませんでしたが、これを「作品」としたのが砂浜美術館の「漂流物展」です。ヤシの実や流木から鯨の骨、英語・韓国語・中国語などの文字が書かれた瓶類、潜水具、さらに指輪まで実に「作品」はいろいろ。

中でも町役場の松本さんが拾って驚いたのは一本の瓶で、中には九か国語で書かれた手紙が入っていました。これはアメリカのブライアン君が、海流の調査のために流した千百六個のうちのひとつだったのです。松本さんは拾ってからすぐに返事を書きましたが、流した当時十一歳だったブライアン君はすでに十六歳になっていたそうです。

電気のふるさと紀行

南国土佐の中心地といえば高知市。その中央には慶長八年（一六〇三年）に山内一豊が築いた高知城がそびえ、市街を見下ろしています。高知駅から南にバスで三十分ほど行くと、月の名所として知られる桂浜に到着です。そこには明治維新の英雄・坂本龍馬の像が、遥か太平洋の彼方を見つめて立っています。不可能といわれた薩摩と長州の同盟を成功させ、海外との貿易による日本の発展を夢見た龍馬。常識にとらわれない自由な発想力。柔軟でありながら、こうと決めたら頑固なまでにやり抜く実行力…。「砂浜美術館」を立ち上げ、真剣に取り組む人たちの姿に、そんな土佐人気質を見るような思いがしました。

ふるさと応援団・岩手県花巻市 東和町土沢地区

㈱土澤 まちづくり会社

岩手県花巻市東和町（旧東和町）土沢地区は、宮沢賢治の詩「冬と銀河ステーション」において賑やかな市日として登場し、また、近代洋画の先駆者ともいわれる郷土の画家である萬鉄五郎の「土沢風景」において行き交う多くの人々が描かれるなど、かつては土沢商店街を中心に賑わいと活気のあるまちでした。しかし、駐車場を備えた郊外型の大型店が進出し、商業地としての勢いは衰退の一途をたどっていました。

そこで、このような状況を食い止めようと、中心市街地活性化を目指す㈱土澤まちづくり会社が、資本金の五十パーセントを旧東和町が出資し、残りを百一名の地域住民が出資する第3セクターとして平成十四年十月に設立されました。

■「道路の社会実験」■

㈱土澤まちづくり会社は、まず、商店街活性化のために歩行者が歩きやすい安全な通りの確保に着手します。

土沢商店街のメインストリートは、大正時代から整備が進んでいない幅員七メートルの歩道のない道路で、路線バスをはじめ生活関連の車両が頻繁に往来します。県は都市計画街路土沢中央線（県道）として整備する計画を立てているものの、財政状況の悪化や費用対効果の面から、約四半世紀棚上げされた状態にあります。商店街の活性化のためには、買い物客や通学児童など歩行者が安全に通行できる道路にしなければならない、と地域住民は考えていました。そのような地域住民の考えを受け、㈱土澤まちづくり会社は平成十五・十六年に国土交通省の「道路の社会実験」を受託しました。仮設の歩道などを作ることで、それが地域にとってどのような影響を及ぼすかを検証する実験です。

平成十五年度の実験では、八日間の実験実施期間中、道路のセンターラインにガードレールを設置し、道路片側を車道、片側を長さ約三五〇メートルの遊歩道としました。遊歩道には、個店が販売など自由に使える空間を設置したり、子どもの遊具や休憩施設の試作品を設置するなど、歩行環境の改善と併せて、安心で楽しめる空間を作りました。

道路を活用したオープンカフェ

そして、平成十六年度の実験では、㈱土澤まちづくり会社が実験の全体企画を立案し、イベントの企画運営等を主体的に実施することで、個店の負荷を軽減し、販促活動に取り組みやすい体制を整えました。

前年度の実験では、道路片側のみ歩道としたため、車道側の店舗では来訪者のアクセスが滞るなど悪影響が生じたとの意見を踏まえ、今回は、十月の土日に約一九〇メートルの道路を歩行者天国にし、道路空間を生かしたオープンカフェや子どもも大人も楽しめるイベントを実施しました。実験後半には、参加する商業者やボランティアが増えるなど地域住民の参加意識が高まり、自動車利用者への負担が心配された自動車通行規制についても、イベントや商店街活性化のために必要との意見が自動車利用者自身から多く聞かれました。

また、これらの実験期間中は、通常一〇〇人程度の歩行者が十倍に増加し、三十分以上滞在する人が通常時は三割だったのに対し、実験期間中は七割を超え、イベントやカフェの実施についても、訪れた方の八割以上から良かったという評価をいただきました。

今後、継続的な実施やさらなる地域活性化にむけ、検討・準備を進めています。

■美術館のあるまち東和町■

これまで商店街の賑わい創出のため、取り組んできた㈱土澤まちづくり会社は、近隣の市町村との平成十八年の合併を控え、「合併の前に自分たちの街の魅力は何か。資産は何か」を考え、次なる活動を始めました。

近代洋画家・萬鉄五郎を輩出した土沢地区には、県の中核美術館である「萬鉄五郎美術館」があります。しかし、美術館を目当てに観光客が来るものの、まちを回遊する仕組みはなく、地域住民が美術館に訪れる機会も少ない状態でした。そこで、㈱土澤まちづくり会社は美術館と商店街を生かしたまちづくりはできないだろうかと考え、土沢商店街をフィールドに、商店や空き店舗、庭先を利用して、芸術作品を展示する「街かど美術館　アート@つちざわ〈土澤〉」を平成十七年十月に開催しました。

第二回の平成十八年度には、約一三〇人の芸術家が参加し、土沢地区七十七ヶ所に絵画や彫刻、インスタレーション（場所や空間全体を作品として体験させる）などを出展。今年十月に第三回を迎えるこのイベントは、過去の街かど美術館で鑑賞者から評価が高かった作家の作品を中心に選抜展として、十月二十七日から一ヶ月間開催されます。

■自身のまちに自信■

街を挙げてのアートイベントに初めは戸惑っていた町の人々も、訪れた人たちからの「ステキな町ですね」「賑やかな町ですね」の誉め言葉に、困惑の表情が自信にかわり、地域住民の中には、自作や所蔵の作品を自ら展示するなど、アートを手段としたコミュニケーションに参加する方もでてきました。自分にできることはないかと㈱土澤まちづくり会社に問い合わせる方も少なくありません。

土澤まちづくり会社の担当者は、次のように語ります「このイベントは、町の人々の心に元気と希望をもたらすきっかけになった。わが町のすばらしさを自覚し、街のにぎわいを取り戻した」と。

■商店街から地域再生■

さらに㈱土澤まちづくり会社では、「農」と「商」の共生関係を創出しようと、商店街周辺に広がる農村部にも着目しました。そして、平成十七年の冬、自然農法などで野菜を作る農家や商店、地域住民の有志が集まり、実験的にコミュニティ・レストランを開設しました。地場産の食材を使った健康料理の評価は高く、現在継続的な開設に向け進行中です。

また、平成十九年四月より毎月一回、土沢商店街では「土澤ちょこっと市」を開催しています。この「ちょこっと」とは旧東和町の方言で「ちょっと」という意味で「気軽にちょっと寄ってみたくなる」「商店や農家がいつもよりちょっと違ったことに挑戦してみる」をコンセプトに名づけられました。月ごとにテーマを決め、少予算で知恵を絞った市を目指しています。

財源は多くないものの、地域のみんなが助けあいながら、「自分たちにできることをちょこっと頑張ってみる」そんな自分のまちを愛する地域のモチベーションが、さらなる活動に繋がっているようです。

1

2

3

4

1～3.日常の生活空間が芸術家たちの手によって、ドラマチックに美術館へと変化する。展示会場を提供することで生まれる住民とアーティストとの出会いや交流もまた、たくさんのドラマを生んでいる。
4. コミュニティ・レストランの様子。

DATA
㈱土澤まちづくり会社
岩手県花巻市東和町土沢8区90番地
TEL. 0198-42-1331
http://www4.ocn.ne.jp/~tmotowa/index.htm

いきいき電源地域

地域振興に取り組んでいる電源地域の元気な姿を紹介します

長野 日本最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」

～人形劇のまち、飯田～

長野県 飯田市

今年8月に開催された「いいだ人形劇フェスタ」の人形劇上演の様子（写真上）。市民と参加劇団による「人形劇人パレード」（写真下）

飯田市は、東は南アルプス、西は中央アルプスに囲まれた長野県の最南端に位置する街で、天竜川両岸に広がる市域は豊かな自然に恵まれています。「りんご並木のまち」「人形劇のまち」としても知られており、今田人形・黒田人形などの人形浄瑠璃や獅子舞など民俗芸能が盛んなことから民俗芸能の宝庫と言われています。

昭和54年（1979年）、飯田市では国際児童年を記念しての催しを思案していた折、人形劇関係者から全国の人形劇関係者が一同に会し、人形劇を演じるお祭りを飯田市で開催したいとの要望がありました。この要望がきっかけとなり、第1回目の「人形劇カーニバル飯田」が開催されました。

これ以降、毎年8月に行われる人形劇の祭典は、市内全域での「分散公演」と参加証ワッペンの採用、上演に必要な費用を劇人自らが負担することを特徴としておりました。参加証ワッペンは、それをつけていれば人形劇を見られるという意味以外に、この人形劇の祭典を「支えている」という意味も含まれています。1988年（カーニバル10年目）及び1998年（同20年目）には、世界人形劇フェスティバルを開催し、飯田市は「人形劇のまち、飯田」として国際的にも知られるようになりましたが、第20回を区切りに人形劇カーニバルは終了することが決まりました。

この時、市民の中から、これからもこの人形劇の祭典を続けていきたいという動きが起こり、市民による新しい実行委員会が誕生し、1999年市民主体の新しい人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」の第1回が開催されました。このいいだ人形劇フェスタは、「みる 演じる ささえる」のトライアングルステージが特徴で、人形劇の公演を約2,500人ものボランティアスタッフが支えています。

ここ数年のフェスタでは、国内外から約300劇団、1700人を超える劇人が参加し、観劇者数も45,000人を超え、まさしく日本最大の人形劇の祭典となっています。人形劇関連の施設としても、今年の3月にはNHK人形劇『三国志』で著名な世界的人形アニメーション作家である川本喜八郎氏の人形を収集・展示する飯田市川本喜八郎人形美術館が開館しました。また、来年の8月には、「人形劇カーニバル飯田」からの通算30周年を記念して、「世界人形劇フェスティバル」を開催します。来年の8月には、是非「人形劇のまち、飯田」にお越しいただき、人形劇を存分に味わってみてはいかがですか。

お問い合わせ先
いいだ人形劇フェスタ
実行委員会事務局
TEL 0265-23-3552

青森 伝統を地域の活力に〈大湊ネブタ祭り〉

青森県 むつ市

むつ市は、青森県の最北部、本州最北端の下北半島に位置する自然豊かな地域で、風光明媚な景色や温泉地などが下北半島国定公園に指定されています。湿度が低く過ごしやすい夏季に比べ、冬季は降雪期間が長く、平野部及び海岸部でも最大70㎝の積雪となり、厳しい交通条件となります。

昭和の大合併と平成の大合併を経て、平成17年に新しいスタートを切ったばかりのむつ市ですが、夏の風物詩「大湊ネブタ祭り」は、短い夏の夜の一大イベントとして、今年で122年目を迎える伝統的な祭りです。

純粋な人形の形をしたネブタとしては、「青森ねぶた」、五所川原市の「立佞武多（たちねぶた）」に次ぐ規模のネブタで、例年、長かった冬の厳しさから開放され、緑濃くなる頃から、前年からの構想を膨らませていた“ネブタ師”達がネブタ製作の準備を始めます。

これと呼応して、お囃子を担当する子供たちの笛と太鼓の練習も始まり、「祭り馬鹿」にとっては落ち着かない日々がやってきます。各町内ともネブタ製作の技術もさることながら、お囃子や踊りの正統性の探究などに夜が明けるまで議論を深めながら、待ちに待った本番を迎えます。

お祭り当日は、笛や太鼓のお囃子や踊り子による流し踊りがネブタの先導役を務め、「青森ねぶた」で有名な「跳人（はねと）」の勇壮な様と比べ、豪華絢爛の中にも見る者に一抹の郷愁さえ漂わせる情緒豊かな祭りとして地元の風土に根づいています。

それぞれの町内のネブタに加え、市役所職員互助会や海上自衛隊大湊地方総監部などの事業所のネブタも参加します。全国各地から集まる自衛隊員にとって、ネブタへの参加は、市民との心温まる交流の場となり、それぞれの故郷の夏祭りに思いを馳せながらエネルギーを爆発させ、再び全国各地の勤務地に就いても、夜空に浮かび上がる武者人形の思い出は、全国いたる所で語り継がれています。

むつ市には、「大湊ネブタ」の他にも、京都祇園祭の流れをくみ、御神輿を5台の山車が露払いしながら、町内を練り歩く「田名部祭り」や「大畑八幡宮例大祭」、「川内八幡宮例大祭」、「脇野沢八幡宮例大祭」などの県の無形文化財に指定されている祭りが8月から9月にかけて開催されます。この時期、むつ市は祭り一色に染め尽くされ、短い夏を惜しむように、若者はもとより、子供からお年寄りまで地域全体が沸騰します。

新「むつ市」が誕生して2年になりますが、地域の宝である“伝統”がいつまでも私たちの心を奮い立たせ、地域発展のための活力になるものと期待しています。

どうぞ皆さんも、夏のむつ市を訪れ、私たちの地域のエネルギッシュな祭りに参加してみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先
むつ市 企画部 企画課
TEL 0175-22-1111

掲示板

「電気のふるさと～電源地域ニュース～」では、電源地域のさまざまな取り組みを紹介しています。このコーナーでは、読者の皆様からお寄せいただいたご意見・ご要望を積極的に誌面に反映させて参りますので、皆様の地域で取り組んでおられる事業や施策を「電気のふるさと」編集室までどしどしお寄せください。巻末にございますハガキをご活用ください。編集室一同心よりお待ちしております。

相談窓口のご案内

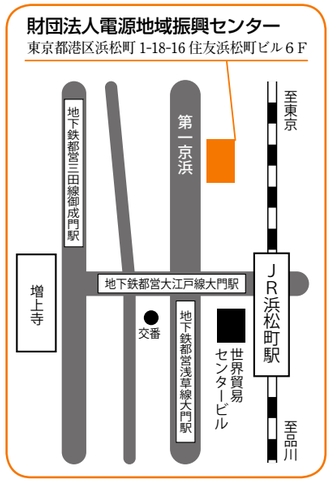
地域活性化に取り組む電源市町村が抱える問題や課題について、それぞれの地域が持つニーズに応じ、相談や要望が受け付けられるように、相談窓口業務を行っています。

相談コーナーの設置

相談窓口は、電話やメールでも受け付けていますが、当センター内に直接対話できるよう「相談コーナー」を設置し、問題解決や課題克服に向けて当センターの持つ豊富な情報を提供しながら、解決策を見出す支援をいたします。

東京へお越しの際には、お気軽にお立ち寄り下さい。

相談コーナーにて、対話風景



コンサルティング強化事業

また、相談窓口に寄せられた相談や要望に応えていくため、一市町村当たり三回を上限として専門指導員を派遣いたします。当事業には二通りの活動内容があります。

【コンサルティング強化活動】

電源地域の皆様が抱える問題の解決や課題の克服を目的として、当センターに寄せられた相談や要望に対し、必要に応じて内容に適した専門指導員を選定し、皆様の市町村へ直接、派遣（アドバイス）を行う。

【サポート活動】

過年度に当センターが実施した調査事業（電源地域振興指導事業）の成果を具現化するための地元市町村の取り組みに対して、各分野の専門の指導員を活用し、より効果的な地域振興の取り組みが継続的に推進されるよう支援活動の質的充実・強化に努めます。

■お問い合わせ先■
(財)電源地域振興センター　振興業務課
電話：03-5405-8115
e-mail：youbou@dengen.or.jp まで

「エネルギー人形劇」上演のお知らせ

この度、経済産業省 資源エネルギー庁の委託を受け、「エネルギー人形劇」を上演いたします。

この事業は、原子力発電施設等の新規立地・増設予定地域、プルサーマル計画の実施が見込まれる立地地域及び既設立地地域の次世代を担う子供達が、将来、エネルギー・原子力、環境問題等について適切な判断・行動ができるように、エネルギー・原子力、環境問題等への関心を喚起し、正しい知識の普及啓発と理解促進を目的とするものです。

イベントに併せた上演も予定しておりますので、是非ご来場いただき、ご覧くださいますよう、ご案内いたします。

対　象：未就学児・小学生（一年～三年）および保護者

■「エネルギー人形劇」のお問い合わせ先■
(財)電源地域振興センター　普及啓発課
電話：03-5405-8128
e-mail：fukyu@dengen.or.jp まで

イベント名	お問い合わせ先	日　程	上演回数
青森県むつ市「消費生活展」	むつ市商工観光課 0175-22-1111	10月6日(土)	午前、午後の計２回／各回３０分程度
福井県高浜町「親子ふれあい広場」	高浜町教育委員会事務局 0770-72-2888	10月21日(日)	
愛媛県伊方町「町民文化祭」	伊方町政策推進課原子力対策室 0894-38-0211	10月28日(日)	
福島県大熊町「ふるさとまつり」	大熊町商工会観光協会事務局 （大熊町商工会内） 0240-32-2870	11月3日(土)	
静岡県御前崎市「産業まつり」	御前崎市商工観光課 0537-85-1135	11月25日(日)	

イベントの詳しい開催場所や上演時間につきましては、各市町村担当窓口までお問い合わせください。

「エネルギープラザ２００７」開催のお知らせ

平成十九年十一月一日(木)・二日(金)の両日、経済産業省 資源エネルギー庁の委託を受け、「エネルギープラザ２００７」を開催いたします。

この事業は、全国の電源立地地域の自治体職員や地域振興の関係者を対象として、地域振興に資する講演及び地域振興の先進事例の紹介・情報提供等の内容による検討会を実施することにより、参加者の地域振興に関する実践力を高め、自治体職員間等の情報交換を図ることを目的としております。

つきましては、多数ご参加いただきますよう、ご案内いたします。

開　催　地：東京都目黒区
　　こまばエミナース
主　　催：経済産業省

■お問い合わせ先■
(財)電源地域振興センター　普及啓発課
電話：03-5405-8128
e-mail：enepla@dengen.or.jp まで

日程	プログラム		時間	会場
11月1日(木)	開会式		15:15～15:25	こまばエミナース大ホール
	オリエンテーション		15:25～15:30	
	基調講演		15:40～16:25	
	パネルディスカッション		16:25～17:10	
	交流会※		17:30～19:00	ダイヤモンド・ルーム
11月2日(金)	地域振興事業検討会	体験交流事業検討会	9:30～16:30	鳳凰の間
		広域観光検討会		飛鳥の間
		漁業振興検討会		孔雀の間
		特産品開発検討会		瑞鶴の間
		交流事業開発検討会		東雲の間
		循環型地域づくり検討会		ダイヤモンドルーム

※交流会は（財）電源地域振興センター主催
●詳細は当センター HP → http://www.dengen.or.jp/ をご覧ください。

平成19年度下期原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金について

本制度は、原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、雇用の増加を生む企業に対して、一定期間にわたって、企業の支払った電気料金に基づき、道府県が給付金を交付する制度です。当センターでは道府県からの要請を受けて交付事務・審査事務を行っています。

平成19年度下期募集は、平成19年10月頃行われる予定です。

●交付対象地域

電源地域のうち一定規模以上の原子力発電施設、核燃料サイクル施設の設置が行われている地域または設置が予定されている地域。

●主な補助要件

【電力契約】

新規立地または増設に伴う電力契約の新設または増設をしていること。

【対象となる電気料金】

①平成19年4月1日～9月30日に支払った電気料金であること。

②申請者が直接契約しているものであること。

③産業用途の電力契約で、臨時契約等期間に制限があるものでないこと。

【雇用】

雇用者（雇用保険の一般被保険者）が3人以上増加すること。

●交付対象期間

初回申請から原則8年の間で、条件を満たす期間については、継続して交付を受けることができます。ただし、前述のとおり、電気料金の支払実績に基づいて金額が決まりますので、都度（通常上期・下期の年2回）申請して頂く必要があります。

●交付限度額

次の(1)、(2)のうち低い額を交付限度額とします。

（1）式①により求めた金額を、表①の区分に当てはめ算定単価を求める。次に式②に算定単価を当てはめ、金額を算定します。

式①

$$\frac{\text{実支払電気料金}(※1)}{\text{需給契約に基づく契約電力}(※2)\times\text{電気料金支払月数}(※3)}$$

表①

区分	算定単価(※4) A	算定単価(※4) B
1,500円未満	750円	375円
1,500円以上 2,500円未満	1,000円	500円
2,500円以上 3,500円未満	1,500円	750円
3,500円以上 4,500円未満	2,000円	1,000円
以後、1,000円ごとに区分	以後、500円ずつ加算	以後、250円ずつ加算

※1. 対象期間に支払った税額等を除く電気料金（ただし、増設の場合は既設相当分を除く）
※2. ※1の支払月における契約電力の平均（ただし、増設の場合は既設相当分を除く）
※3. ※1の電気料金支払月数
※4. 交付対象地域により、算定単価Aまたは算定単価Bが適用されます。
※5. ※2の契約電力と下表の区分に応じた契約電力の上限のうち、いずれか低い数値とします。

区分	上限
3人以上 20人未満	1,500kW
20人以上	2,500kW

※6. 電源立地地域対策交付金の交付対象地域における交付金単価

式②　契約電力(※5)×【算定単価A又はB－交付金単価(※6)】×月数(※3)　←ここで算出された金額が（1）の値

（2）実支払電気料金(※1)

■お問い合わせ先■
(財)電源地域振興センター　立地審査課
電話：03-5405-8113
e-mail：ritti@dengen.or.jp まで

「新潟県 柏崎市・刈羽村 震災復興事業」を実施しました

新潟県・柏崎商工会議所からの要請を受けて、平成十九年八月二十二日(水)から二十六日(日)の間、イトーヨーカ堂ららぽーと横浜店イベント会場にて、「新潟県 柏崎市・刈羽村 震災復興事業」を実施しました。

イベント会場には柏崎市・刈羽村のPRとして、震災時から復興に向けての様々な活動や復興状況の写真をパネルにし展示しました。来場者からは「新聞、テレビで知る情報と異なり、パネル写真を目の当たりにすると被害の大きさを実感しました」との声が聞かれるなど、多数の来場者がパネルの前で足を止めていました。

また、二十五日、二十六日の両日には、パネル展示と合わせて、柏崎市の十四事業者を対象に、「対面販売チャレンジ」を実施し、イトーヨーカ堂のバイヤーや催事マネージャーによる商品陳列や商品PRの仕方などのアドバイスがありました。

初日より、米や海産物などの追送がかかるほど、予想を上回る売れ行きとなりました。

この場をお借りして、この度の新潟県中越沖地震により被害を受けられました皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

「夏休み親子体験学習会2007in東京」を開催しました

経済産業省 資源エネルギー庁の委託を受け、七月三十日(月)、三十一日(火)の両日、「夏休み親子体験学習会2007in東京」を開催しました。

この事業は、原子力発電施設等の新規立地・増設予定地域、プルサーマル計画の実施が見込まれる立地地域及び既設立地地域の次世代を担う子供達が、将来、エネルギー・原子力、環境問題等について適切な判断、行動ができるように、エネルギー・原子力、環境問題等への関心を喚起し、正しい知識の普及啓発と理解促進を目的とするもので、厳正な抽選で選ばれた小学校四～六年生の親子二十六組に参加いただきました。

電力館で発電機について学習

三十日は渋谷にある電力館で原子力・地球環境について楽しく学ぶとともに、夜は手回し発電機を使った鉄道模型レース「電車でGO!」の中でエネルギークイズを実施し、子供達の交流を深めながら楽しく学んでいただきました。

▲チームに分かれて鉄道模型を走らせる

◀最終日、小森先生と一緒に集合写真

また、その間、保護者は経済産業省との意見交換会を実施し、日頃感じている疑問などを話し合っていただきました。

三十一日は科学技術館で放射線や原子力のしくみなどについて知識を深めていただいた後、小森栄治先生によるワークショップを開催し、プルサーマルについて楽しく学んでいただきました。

人事往来

●経済産業省（平成19年５月～７月）抄

○平成19年6月17日付発令

氏名	（新）	（旧）
中村　講治	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電源地域整備室長	資源エネルギー庁長官官房会計室長
草野　祥二	辞職	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電源地域整備室長

○平成19年7月1日付発令

野口　哲男	中部経済産業局地域経済部長	大臣官房参事官（原子力立地担当）兼電力・ガス事業部付

○平成19年7月9日付発令

舟木　　隆	中小企業基盤整備機構（理事）	資源エネルギー庁電力・ガス事業部長

○平成19年7月10日付発令

寺坂　信昭	大臣官房商務流通審議官	原子力安全・保安院次長
薦田　康久	原子力安全・保安院長	原子力安全・保安院審議官（原子力安全・核燃料サイクル担当）
広瀬　研吉	辞職	原子力安全・保安院長
木村　雅昭	大臣官房審議官（商務情報政策局担当）	資源エネルギー庁長官官房総合政策課長
宮川　正	経済産業政策局経済産業政策課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部政策課長
柳瀬　唯夫	経済産業政策局企業行動課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力政策課長
赤津　光一郎	東北経済産業局長	大臣官房参事官（商務流通グループ・総合調整担当）
藤田　昌宏	関東経済産業局長兼総務企画部長	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）・知的財産戦略推進事務局次長
大辻　義弘	中部経済産業局長	大臣官房審議官（経済産業政策局担当）
杉田　定大	中国経済産業局長	内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）・知的財産戦略推進事務局参事官
細川　政弘	四国経済産業局長	経済産業政策局調査統計部長
谷　重男	九州経済産業局長	内閣府大臣官房審議官（科学技術政策担当）
安藤　久佳	資源エネルギー庁長官官房総合政策課長	製造産業局鉄鋼課長
西山　英彦	資源エネルギー庁電力・ガス事業部長	大臣官房総務課長
後藤　　収	資源エネルギー庁電力・ガス事業部政策課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長
吉野　恭司	資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長	資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物等対策室長
高橋　泰三	資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力政策課長	製造産業局産業機械課長
渡邊　厚夫	資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物等対策室長	大臣官房付
鈴木　正徳	原子力安全・保安院次長	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）・行政改革推進事務局特殊法人等改革推進室次長
佐藤　樹一郎	経済産業研究所（副所長）	中部経済産業局長
長谷川　英一	大臣官房付・辞職	東北経済産業局長
脇本　眞也	大臣官房付・辞職	関東経済産業局長
宮下　英治	大臣官房付・辞職	中国経済産業局長
塚本　芳昭	大臣官房付・辞職	四国経済産業局長
川口　　修	大臣官房付・辞職	九州経済産業局長

●電源立地都道府県知事（平成19年5月～7月選挙分）

都道府県名	氏名	当選月日
青森	三村　申吾	6月3日
群馬	大澤　正明	7月22日

●電源地域市町村首長（平成19年5月～7月選挙分）

市町村名	氏名	当選月日
市原市（千葉）	佐久間　隆義	5月27日
三沢市（青森）	種市　一正	6月10日
北茨城市（茨城）	豊田　稔	6月10日
加西市（兵庫）	中川　暢三	6月17日
大月市（山梨）	石井　由己雄	7月1日
南山城村（京都）	手仲　圓容	6月24日
加美町（宮城）	佐藤　澄男	6月17日
川井村（岩手）	内舘　勝則	7月1日
むつ市（青森）	宮下　順一郎	7月15日
美濃市（岐阜）	石川　道政	7月15日
瑞浪市（岐阜）	水野　光二	7月22日
東浦町（愛知）	井村　徳光	7月24日
日田市（大分）	佐藤　陽一	7月29日
忍野村（山梨）	天野　康則	7月29日
那珂川町（福岡）	後藤　良助	7月29日
平田村（福島）	澤村　和明	7月29日
藤里町（秋田）	石岡錬一郎	7月31日

【Vol・8 読者の声から】

●「PickUp!」で取り上げた産学官連携で漆器産業の活性化に取り組む会津若松市「會/sNEXT」事業の記事を拝読いたしました。いろんな枠を越え、その先の本当に良いものを追求することが大切だと思いました。

私の住む洞爺湖町では来年のサミットを控え、世代や職柄の枠を越えて、ふるさとの良い点、誇りになる点を見直していきたいと思います。

（北海道洞爺湖町　女性）

【お知らせ】

前号「電気のふるさとvol.8」の巻頭ページ「人」にご登場いただきました下平尾勲（しもひらお・いさお）さんが9日、内臓疾患のため享年六十九歳にて、ご逝去されました。

ご執筆をお願いいたしました折には、とても元気なご様子でしたので、突然の訃報に接し、センター一同悲しみでいっぱいです。先生のご冥福をお祈りするとともに、生前のご厚誼を深謝し、謹んで皆様にお知らせいたします。

【読者プレゼント】

今号の特集「Pick Up!」にご登場いただきました高知県黒潮町のご厚意により、「おおがたはがき」を五名様にプレゼントいたします。

とじ込みのアンケートハガキに本紙へのご意見、ご感想などをご記入の上、平成十九年十月二十日（消印有効）までにお送りください。なお、当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

「おおがたはがき」とは、砂浜美術館オリジナルの 36.5cm × 51.5cm サイズのハガキです。
我が家のテレビ画面より“おおがた”かも。
ポスターとして部屋に飾るもよし、140 円切手を貼って送るのもよし！砂浜美術館の素晴らしいアートがご覧いただけます。
どんなアートが届くかは、当選してのお楽しみです (^^)

電気のふるさと　電源地域ニュース　通巻９号　平成 19 年９月 20 日発行

発行・財団法人　電源地域振興センター
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目 18 番 16 号　住友浜松町ビル６階
TEL 03-5405-8111（代表）URL http://www.dengen.or.jp/

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

産品自慢 ―― Vol.9　山形県 酒田市

平田赤ねぎ

酒田市は、山形県の西北部に位置し、最上川が日本海と出合う古くから開けた港町と、最上川下流からなるわが国有数の穀倉地帯を形成する庄内平野を有しています。

今回は、酒田市では古くから愛されている伝統野菜「平田赤ねぎ」をご紹介します。

「赤ねぎ」とは、その名のとおり根元の部分がワインカラーのねぎで、日本数箇所でしか栽培されていない貴重な野菜です。中でも分けつ（根元から枝分かれ）しない一本ねぎは酒田市飛鳥地区（旧平田町）で栽培される「平田赤ねぎ」特有のものです。

自然の恵みをたっぷりうけて・・・(^_^)

北前船（きたまえぶね）※1による交易が盛んだった江戸時代の末期に上方（大阪）の商人から伝わったとされ、地元の農家により代々守り育てられてきました。

「平田赤ねぎ」は、一般的な白ねぎよりも生では辛味が強く、火を通すと一転して甘みに変わります。生のまま刻んで蕎麦の薬味やサラダの具材としてお使いいただくと味が引き立ちますし、山形名物「芋煮」など鍋物に加えるとトロリとした口当たりで、やさしい甘みが出て、大変おいしく召し上がれます。また、独特のワインカラーは料理に彩りを添えてくれるでしょう。

この赤色は今話題のポリフェノールの一種であるアントシアニンです。このほか、ポリフェノールの中でも最も多くの健康機能が報告されているケルセチンやその他健康に良いとされる成分が白ねぎに比べて遥かに多く含まれており、その健康機能に多くの期待が寄せられています。

栽培が難しく、収穫まで非常に手間がかかることから従来は市場に出回ることはありませんでしたが、近年生産者による栽培技術の改良で皆様の食卓へお届けできるようになりました。昨年１２月には地域団体商標の認定を受けました。

今日、農産物の安全安心供給への要望や、伝統野菜をはじめとする本物志向・スローフード志向が高まっている中で、豊かで心温まる食生活の一助として、「平田赤ねぎ」をぜひご賞味ください。

※１．江戸時代から明治時代にかけて、大阪から瀬戸内海、関門海峡を経て、北陸などの日本海側の諸港を結びんでいた船の呼び名。

お問い合わせ先　　庄内みどり農業協同組合　酒田園芸センター　北部選果場
TEL　０２３４-２８-２７３８